

プログラム名 (40字以内)	ケニアスタディーツアー ～リアルなアフリカへの第一歩～		
団体名/所属	本学学生(活動指導職員:坂田・森・浅谷・西本研究室 村田幸優 学術専門職員)		
活動区分	フィールドワーク体験活動	希望する選考方法	書類審査後に面接
募集人数	12人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	現地での説明を聞いてしっかりと理解できる英語力があることが望ましいです。また、観光ではなくスタディーツアーですので、現地のことについて主体的に調べ、質問し、学び取る姿勢を歓迎します。		
活動期間	2026/9/10(木)～2026/9/20(月) (ケニアでの滞在は11日～19日)	主な活動予定場所	ケニア(ナイロビ、キスム、ナンディ、アンボセリ、モンバサなど、参加者の興味に応じて調整可能)
プログラム実施の目的	最後のフロンティアと言われるアフリカ大陸。人口の平均年齢19歳であり若い世代の能力を充分活かす必要がありますが、様々な分野において経済成長を遂げた先進国の経済的・技術的協力も要します。このような状況下、先進国日本の高い教育を受ける若い人達がアフリカの問題やポテンシャルを体験し、自分の将来にアフリカをどのように位置付け、関わり、協力しあえるかをケニアでの現地体験を通じて考える機会を持ち将来、アフリカや世界を舞台に活躍する人材輩出の一助となることを目的です。		
具体的な内容(800字程度)	<p>ケニアには、机上の議論を超えて実際に現場に行ってみないとわからない現実があります。そんなありのままのケニアを見て体験して考える機会を提供します。</p> <p>スタディーツアーを企画し現地でご案内してくれるのは、柏原ルミコさんです。在ケニア・在マラウイ日本国大使館の草の根委員長などを経験されており、ケニアに住んで14年になります。</p> <p>ビジネス、文化歴史、民族、国際協力、自然、野生動物など様々な観点から、ケニアを掘り下げていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケニアの現地で活動するNGOや現地の団体を訪問し、地域の課題や現状および団体の取り組みを体験し考える。 ・ケニアの主要産業の一部(主に農業・観光業など)や過去に実施された日本の経済協力・地域開発プロジェクトを訪問する。 ・サファリの体験を通して、アフリカに生息する野生動物の美しさや彼らの知恵を学び、野生動物との共存や環境保護などについて考える。 ・多様な民族を知り、それぞれの文化や伝統・慣習、人間の多様性を学び、尊重の重要性について考える。 ・ケニアのもつポテンシャルを体感し、将来的な自分の活動や取り組みについて考える。 ・ケニアの歴史的な大地の育みや人間の歴史などを見て知って考える。 <p>また、参加者確定の1ヶ月後程度までは参加学生の興味に応じて訪問先を調整することも可能です。</p> <p>ケニアはアフリカの中では比較的治安の良い国ですが、それでも自力で渡航する際は多くの危険が伴います。現場のことを知り尽くした人の案内のもとで、現地のセキュリティもツアーに同行するので、現場感と安全性の両方が担保されたスタディーツアーになっています。</p> <p>ナイロビの中でも危険レベル2の地域(スラムがある場所)は目的地的に入れていません。ナイロビで宿泊する際も、レベル1で治安の良い場所を選んでおります。</p>		
【総額】参加するための費用	2600米ドル程度(うち1200米ドルをツアー費用としてケニアで現金で集金します)		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	300米ドル(ツアー費用に含まれる)		
【内訳】参加するための費用(交通費)	ケニアまでの渡航費 1200米ドル程度、国内の移動・セキュリティ 400米ドル(ツアー費用に含まれる)		
【内訳】参加するための費用(その他)	サファリその他観光 200米ドル(ツアー費用に含まれる)、主催者に支払うプログラムを運営するための費用 300米ドル(ツアー費用に含まれる)、食事やお土産代 200米ドル程度		
奨励金額(予定)	80,000円		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・日本からの往復航空券は早い時期に予約すると安く済みます。早ければ16万円程度から、直前になると20万円以上になることが多いです。黄熱病やマラリア、狂犬病など、感染症に気をつける必要があります。ケニアの場合予防接種は義務ではありませんが、打っておくと安心です。その場合また別途で費用がかかることとなります。(ケニア入国の際、黄熱病接種証明・イエローカードの提示を求められることがあります。) ・ケニアでは衛生状況が日本とは異なります。また、長時間の移動に伴ってトイレ休憩が頻繁にできない場合もあります。可能な限り各個人に配慮しますが、体調管理について不安がある方は事前にご相談ください。 ・安全対策について、Cyrusさんという現地ケニア人の方に常に同行して頂きます。加えて、こちらで雇ったケニア人運転手2名に車を運転をいただき、移動は基本的に全てdoor to doorとなります。日本人の集団は現地でも目立ちますので、公共交通機関などを使わないことで、不要なトラブルを避ける狙いがあります。 ・質問などがあれば、以下の二人のいずれかに気軽にいつでもご相談ください。 ブラウト アルウィン(東京大学工学系研究科修士2年・alypraet@gmail.com) 柏原ルミコ(rumiko.kashihara125@mail.com) 		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト	https://drive.google.com/file/d/1kQ9y5vC3Yi3Hjx9DA0ZjRBFqRXXznUP/view?usp=sharing		
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)			
この企画に対する担当者(応募団体)の参加の有無	参加しない		